
野澤さんクオリティ

長谷モ1 v 2 8

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野澤さんクオリティ

【Nコード】

N4656BA

【作者名】

長谷モリV28

【あらすじ】

不幸な野澤さんの謎めいたお話

のざろーぐ 1 / 4 (前書き)

訳の分らなくなるキモい作品です。死んでしまった虫を見るような眼で見てください。

後悔している。何故こうなった。

何故俺は何日も広い個室トイレに居るんだ？

野澤さんクオリティ

重いため息をつく。何でこうなったのか。便座に座り続けて早や5日、正直もう外に出て遊びたい、家に帰りたい。あの時何で調子に乗ったのか。忌々しい記憶を思い出すとしよう。暇だし。

「おーい、磯野、ベースボールしようぜ。」

「誰が磯野じゃない！」

俺が不知火に突っ込みを入れると奴はケラケラと笑う。どこぞの中島発言をした奴は俺の友人 不知火猛。しらぬいたける野球なんぞやったことも無しにこうやってよく吹っかけてくる。サザ○さんを毎週見ているそ
うだ。

高校生にもなっても見るのかい。

「如何した磯野？何だ、お腹痛いのか？ポンポン痛いのか？」

正直ウザい。尋常じゃない程に。あとやたらとボディタッチ&セクハラしてくるくそ野郎だ。

「ほらほら、何か言ったらどうなのよ？野澤野郎。」

よく意味不明な発言をしてくるが、精神的には頭が良い。が、親しい奴らの前にだけアホになる

「で、どうしたの？坊や？」

「ああ、お前があまりにもウザいと感じたからな。自立しろ。」

「私は一生お前にしがみつく、依存する、離れない。」

こいつはやたらと絡んで来るせいで俺以外あまり親しい友達がいない。まあ、親しい奴らは心が繋がってるが。

「離れる、このど低能が。」

「野澤さんや、後で林の家に行かない？3連休だから遊ばないかって？」

こいつ、俺がヘッドロックしている状態で何事もなかったかの様に話しかけてくる。

「ああ、いいぞ。元々泊るつもりだったからな。」

「あらやだこの子。準備早い。後痛い痛い痛い痛い。」

良かった、ちゃんと効いているようだ。棒読みで話しているが。

「ちよつ、おまつ、ガチで痛いガチで痛い何でさらに強く締上げるの痛い。」

「お前も泊るんだな、じゃ、先帰るわ。」

地面に寝ているアホを放っておいて俺は泊る準備をしに先に帰った。こつち笑いながら見るなきもいあいつ。

林の家の前で不知火に会ってしまった。

「何か今失礼なこと考えなかった？」

いや、お前の存在が失礼だと言おうとしたがその前に林の家のドアが開いた。

「よく来た野澤、不知火。油はもう来ているぞ。」

何故今ドアを開けた？このタイミングで。

「何故って顔だな。簡単だよ。不知火がうつせんだ。」

成程分かった。近所迷惑だなアイツ。俺と会う前に騒いでたんだな。林の名は 林強気^{はやつしげ}。俺と馬鹿と油の友人であり数少ない不知火の親しい奴だ。頭はいいがよく気が狂ッ多様な発言をする。学年に1人居るかいけないような奴だ。感性がおかしいと自覚している分人間としてはいいい奴だ。

「まあ、ササつと入れ。うるさくなる前に。」

同感、こいつも不知火もいい奴なんだがな。

「めちゃんはうるさくない、やかましいんだ！」
うるせえ。

フルコーンパンチ セイヤツ

「よく来たな3人とも。ようこそ我が城へ。」

「貴様のではないぞ、油よ。」

偶に油はボケるが喧しくはない。

油の名は とみたけゆじょう 富竹油情。名前の油があだ名になっている。こいつも仲がいい。スマブ○とかのゲームを愛するゲーマーだ。1v9を3体相手にチーム戦で圧勝している。ほう、1%も食らってないか、ストックは5つか。

「テストに疲れただろう。今日明後日ずっと遊びつくそうぜ。」

油はみんなに対しフレンドリーだが友達は直感で決めるそうだ。彼曰く俺ら以外皆どうでもいいそうだ。

「ヒヤッハッー。2Lコーラ7本に適当な菓子ラーメン食品等買ってきたぜ。」

準備はいいが不知火よ、うるさい。

「スマブラの対人戦で私に勝てると思うなよ。」

林は自身を私という。なぜだ？

「じゃあ乱戦で行こうぜ。」

「貴様、やるではないか。」

「お代官様ほどでは。」

「無礼者！容赦せんつ。」

「ギヤーす。」

油と林は茶番が好きだ。周りによく引かれるがかまわずやる。ん？不知火が居ない？居ないことに対し危険を感じた俺は後ろに裏拳を放つ。

「あべしっ」

やれやれ、こいつも茶番好きか。

「ああん、これが噂の野澤クオリティ。
しまった、さらに頭のねじが飛んだか。」

のぎろーぐ 1 / 4 (後書き)

自分くそですね。中途半端になってますし。ごめんなさい。

のざろーぐ 2 / 4 (前書き)

自分アホなのでこのサイトの仕組みがまだ分からない

のざろーぐ 2 / 4

あの後皆で遊び耽った。だが皆俺を狙うのをやめてくれ、弱いんだ、ゲームは。モンハンぐらいしかできないんだ。ゴールデンアイのイジメ良くない。

「ウホッ、野澤さんよえええwww」

「弱いぜのざわぁww」

「・・・手加減・・・しようか？」

上から不知火、油、林。無性に不知火に対しイラつく。

「よし、公平に出来るゲームをしよう。」

林・・・気持ちはうれしいが、惨めになる。

「おつしや、じゃカードでもやる？遊戯○やろうぜ遊戯○w」

「俺まだよく分かんないんだぜ」

何、ならば俺が教えよう。

「私が教えよう。」

・・・まあいいか。

「決闘だ不知火！」
デュエル

「かもーん、野澤様。貴方が負けたらその体、頂くわ。」

不知火は沸いているのだな。神よ

。

その後、不知火は終焉のカウントダウンを発動したが俺の逆巻く炎の精霊＋スケープゴート＋団結の力×3＋お触れで勝った。手札が良かったな。

「分からないからトランプしようぜ。」

油よ、もう少し頑張ってくれよ。俺の相手少ないんだ。だが賛成。

「ポーカーでどうだ？勿論罰ゲーム付きで。」

この時俺は賛成しなければよかったんだ。林め、恨まんぞ。

結果負けまくった。あまりにも負けたので他のゲーム・・・も負けた。罰ゲームがどんどん溜るがやっていた。悔しかったのかな。何であんなにやったんだろう。

「もう、止めたらどうだ、とんでもない罰ゲームを作るぞ。」

「うっさい、カード配れや。」

結果、・・・大富豪30戦29大貧民

ポーカー12000円損失

チェス10戦敗

将棋5戦5敗

ブラックジャック3000損失・・・

やつちまった・・・あいつ等いかなる時でも全力出すからな・・・。
くそっ。

「だから言っただのにww」

「どますww」

「私の借金が君のおかげで消えたよ」

不知火よりも林にイラツイた。

「ああ畜生、罰ゲームでも糞でもなんでもござれ　くそが。」

「マジで？じゃな俺のイチやったばあああっあああー」

「何がいいかね？」

「なにがいいかな」

あいつ等も不知火はどうでもいいんだな。糞医者みたいな声出してぶっ飛んでったが。

「じゃあさ、夏休みに決めようか」

ん？今決めないのか。まああれだけ負けてんだ。すぐには決めらんだろう。あんなに負けたことなかったし調子乗ったな。何食らわせられるかな？

「じゃあ俺のナ「オラオラオラオラオラオラオラッー」」
復活早いなこいつ。

のざろーぐ 2 / 4 (後書き)

速く書けない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4656ba/>

野澤さんクオリティ

2012年1月12日19時54分発行